

ふくろいスマイル座談会 ⑧浅羽東地区

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 浅羽東地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年10月19日(土)10時～11時30分
場所	浅羽東コミュニティセンター【参加人数:23人】
内容	1 開会 2 まちづくり協議会/会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答 5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など 6 閉会



「ご意見・ご提案」用紙から
 ●提出はありませんでした。

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

子どもがすこやかに育つまち

- 子どもたちは、暑さ対策により、夏の日中の練習や試合が制限されている。夜間に練習したくてもナイター設備がある施設が少ない。民間などで照明設備と維持費が安価で、使用している事例があると聞いている。子どもたちの将来につなげるために、新しい発想でナイター設備を検討してほしい。
⇒部活動の地域移行など子どもたちの活動も大きく変わろうとしている時期。ナイター設備の整備が可能かどうか、確認・検討をしていく。地域のチカラを借りる部分が大きくなる。
- 非常勤教員をやっているが、学校の予算が減り、授業で使うものが購入できない場合があり、授業もやりにくい。
⇒学校の予算は、人の面は県、施設面は市となっている。県と市の予算を確認する。
- 猛暑日の体育の授業が運動場では出来ない。体育館にはエアコンがない。エアコンの導入を検討してほしい。
⇒体育館にエアコンを導入す場合には、断熱工事が必要となる。小・中学校合わせて16校あり、全ての体育館に導入となると大きな経費がかかる。市長会等の要望を通じ国や県と連携し、取り組みをしていきたい。

安全・安心に暮らせるまち

- 関東地区で凶悪事件が多発しているため、県警と相談をし、厳重に防犯対策をしてほしい。
⇒行政の役割として、市民の生命財産を守ることが基本。行政としても、警察と連携をしながら地域の安全を守っていく。

健康長寿で暮らしを楽しむまち

- 中東遠総合医療センターの運営経費に袋井市の予算がいくら使われているか知りたい。どのように使われているか分かりやすく伝えてほしい。
⇒中東遠総合医療センターに約7億円、聖隷袋井市民病院に約2億円。病院関係予算に約9億円を使っている。

市民がいきいきと活躍するまち

- 袋井市の人的財産である、浅羽佐喜太郎（ベトナム）や鳥居信平（台湾）等を活用し、外国人との交流をしていきたい。
⇒行政としても、先人の功績に対する顕彰をはじめ、交流に対する理解と支援により、協力関係をつなげていく取組みをしていきたい。

快適で魅力あるまち

- 浅羽地区には、屋外に子どもが集まる場所や自然があるのに、浅羽支所の屋内にあそびの杜をなぜつくるのか。あそびの杜にお金を使わず、身近なところで遊びや体験の場を作れるのではないか。
⇒様々な議論をしながら計画を進めているところ。屋外でも屋内でも、両立できるのが地域の魅力になるようにしていきたい。
- 浅羽地区で都市計画事業がほぼないのに、都市計画税があるのはなぜか知りたい。
⇒袋井市という枠の中での用途となることをご理解いただきたい。また、今後の都市計画事業も含めご納得いただく用途を検討していく。